

編集後記

『郵政博物館 研究紀要』第10号をお届けします。巻頭論文1本、シンポジウム特集4本、論文3本、研究ノート2本、資料紹介2本、トピックス2本の構成です。

本研究紀要の継続前誌『郵政資料館 研究紀要』第3号の編集後記にて、小原宏氏が創刊時に主査の先生より「研究論文誌は3年続けてやっと一人前」とのお言葉があった話を取り上げられ、まずは3年継続して発刊したことを一つの到達点として評価されていたことを思い出します。早いもので、本号で10年続けて刊行したことになります。この間主査のほとんどの先生方が定年退職され、研究会メンバーの交代等の変化がありましたが、変わらず精力的で斬新かつ高水準のご研究をご報告、ご執筆いただいております。本紀要の編集に携わっている者としては、感謝の念に堪えません。

また、当館資料担当学芸員の重要な仕事として、収蔵資料の整理、調査を日々進めておりますが、それでもまだ多くの資料群が未整理、未調査のまま残っております。近年外部の研究者や郵趣家のご協力を賜り、資料群の整理・調査が進められており、今回その成果の一部を郵便史研究会会長の近辻喜一氏よりご発表いただきました。

昨年6月16日、郵政博物館で開催した明治改元150年企画展「幕臣たちの文明開化」（会期2018年4月20日～7月1日）の関連イベントとして、同名のシンポジウムが開催されました。本号では特集として、シンポジウムの登壇者4名による特集およびパネル報告に基づく論考を掲載しました。資料整理・調査の成果報告、展覧会との連動企画等、本紀要は今後も新たな試みを続けて参りたいと思います。
(編集委員 田原)

本年は初めて編集窓口を担当させていただきました。まずは無事に刊行できましたことに安堵しております。ご執筆者の皆さまには編集の円滑な進行にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
(編集委員 倉地)

[郵政歴史文化研究会 主査] (分科会担当順)

石井 寛治 (東京大学名誉教授)
新井 勝紘 (元専修大学文学部教授)
杉浦 勢之 (青山学院大学総合文化政策学部教授)
杉山 伸也 (慶應義塾大学名誉教授)
藤井 信幸 (東洋大学経済学部教授)
山本 光正 (交通史学会会長)
田良島 哲 (東京国立博物館学芸研究部調査研究課長)

[編集委員]

井上 卓朗 (郵政博物館館長兼主席資料研究員)
田原 啓祐 (郵政博物館主任資料研究員)
倉地 伸枝 (郵政博物館学芸員)

郵政博物館 研究紀要 第10号

印刷 平成31年3月29日
発行 平成31年3月30日

編集 郵政歴史文化研究会
発行 公益財団法人 通信文化協会 博物館部 (郵政博物館資料センター)
〒272-0141 千葉県市川市香取二丁目1番地16号